

B-21 衣料害虫の研究 — 染色布に対するイカ幼虫の食害について —
愛知淑徳短大家政 ○泉加代子 奈良女大家政 辻井康子

目的 現在市販されている防虫加工剤のオイラン類は、Martius Yellow が防虫効果を有することから起因して、Triphenyl methane 系の無色染料による防虫作用剤の研究が進められて開発されたものである。そこで、現在使用されている各種染料にも何らかの防虫効果を有するのではないかと考えて、染色布の防虫効果の検討を行なった。

方法 羊毛標準試料布を酸性染料15種、塩基性染料3種、酸性媒染染料5種で染色し、 2×2 cmに裁断した。この染色布と未処理布を恒温恒湿室で、選択的及び強制的にイカ幼虫に摂食させ、食害率を求めた。なお、染色濃度と食害率についても検討を行なった。

結果 (1) 試験法の如何にかかわらず、未処理布と染色布の食害量には有意差が認められ、染色すると食害量が低下した。(2) 染料間にも著しい食害量の差が認められたが、染料の色相には関係が認められなかった。(3) 染料濃度と食害率には相関がみられ、高濃度で処理するほど食害率は低くなった。(4) 以上より、染料はイカ幼虫の食害に対して、忌避効果を有するものと思われる。